



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3196 号 2016.8.19 発行

お薬手帳カバーなど金賞 障害者施設商品コンクール [福岡県]

西日本新聞 2016年08月19日
 金賞を受賞したお薬手帳カバー。猫のイラスト入りが売れ筋という。小売価格は980～1280円(税込み)



金賞受賞の掛け時計。アンティーク調のデザインで、インテリアとしても重宝しそうだ。小売価格は3800円(税別)



福岡市は18日、障害者施設で製造した商品のコンクール「ときめきセレクション2016」の受賞商品を発表した。金賞には「ドンマイ」(中央区)によるお薬手帳のカバーや「工房まる」(南区)の掛け時計など4商品を選出。受賞商品の一部は、同日から市役所1階のユニバーサルカフェと西鉄薬院駅ビル1階の「ときめきショップ」で販売している。

市が掲げる「みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサル都市」の一環で、商品を通じて障害者と社会のつながりを深めるため2010年度から毎年度実施。今回は市内37施設が86商品を応募し、特別賞3商品、入賞13商品も合わせ計20商品が受賞した。

「タイム」(中央区)のオリジナルポストカード、「喫茶ほっと」(東区)の志賀島産の甘夏を使ったスパークリングジュースも金賞を受賞。そのほかの受賞商品には雑貨類や切り干し大根、米粉を使った洋菓子などがそろそろ。各商品の売り上げが伸びれば障害者の工賃アップにつながるという。

市障がい者在宅支援課は「年々、商品のレベルが上がっており、今回は雑貨を中心に個性的で魅力的な商品が多い」としている。

富士の障害者施設 トイレ紙を製造発売

中日新聞 2016年8月19日

◆「ありがとう」包装紙に感謝印刷

富士市が設置運営する障害者福祉サービス事業所「市福祉キャンパスくすの木学園」は、トイレットペーパー「ありがとう」を発売した。障害のある学園利用者が心を込めてつくる、紙のまち・富士市ならではの商品。市産業支援センター「エフビズ」とタグを組み

販路拡大を目指す。

「働く幸せありがとう」「皆さまに喜んでもらえるようこれからも頑張ります」。利用者のメッセージや製造工程を紹介するイラストを包装紙に印刷した。いずれも手書きで、エフビズが温かみのあるデザインに監修した。障害者たちが製造に関わっていることを前面に出し、付加価値の向上を狙った。

製造には知的障害や精神障害のある利用者十九人が携わる。作業では市内の製紙業者から仕入れた幅二メートルのロール状の原紙を機械でトイレットペーパー用の芯に巻き直し、別の機械で幅十一センチに裁断。手作業で包装や箱詰めを行う。

利用者の西本力也さん（21）は「難しい作業だけど今は上手になった。お客さんが使ってくれることが仕事のやりがいです」と話す。



「ありがとう」をPRする利用者と職員ら＝富士市大淵のくすの木学園で

手作業でトイレットペーパーの仕上げ作業をする利用者ら＝富士市大淵のくすの木学園で

くすの木学園は設立間もない一九七三年から、トイレットペーパーの加工を手掛けている。製紙会社の下請けのほか、自主商品のトイレット



トペーパー「ふじくすの木」を受注生産してきたが、注文は自治体の庁舎用などに限られていた。地元企業にも需要がないか、昨年夏にエフビズに相談した。

エフビズは、更新したばかりの機械の性能や、利用者の丁寧な仕事ぶりに注目。新商品の開発と一般向けの店頭販売を提案し、デザインやマーケティング戦略を練った。

富士市永田町の松坂屋富士ギフトショップで今月から販売しており、販路開拓も進める。地元で既存商品の販売先を探していた施設側にとっては思わぬ展開になった形だ。

笠倉秀活園長（58）は「全国展開を目指す。少し高価だが、利用者の工賃に跳ね返る。温かい気持ちで購入してほしい」と願う。

十二個入り四百五十円（税込み）。問い合わせは、くすの木学園＝電0545（35）0312＝へ。（小佐野慧太）

障害者の就労訓練に 宇佐市にカフェ・レストラン



大分合同新聞 2016年8月19日
宇佐市四日市にオープンした「ナチュラルエイト」



宇佐市四日市に、障害者の就労支援

を目的としたカフェ・レストラン「ナチュラルエイト」がオープンした。一般も利用でき、地域に親しまれるような場所を目指している。

店舗は県社会福祉事業団が運営。6月下旬に新築した地域総合支援センターに併設しており、7月にオープンした。障害者の可能性を広げることや就労訓練を目的に設けられた。事業団と雇用契約を結び、最低賃金以上を支払う。調理担当に4人、配食サービス担当に8人などを雇用している。

宇佐八幡の「八」をイメージし、末広がり的心愿を込めて店名をつけた。外観は八角形の造り。市木のイチイガシを敷地内に植えてシンボルとしている。石窯ピザやハンバーグ、パスタなどの洋食やコーヒーを味わうことができる。

事業団は「多くの人に利用してもらい、障害のある人たちと触れ合う場になってほしい」と話している。

ランチタイムは午前11時から午後2時、軽食を提供するティータイムは午後2時から同5時まで。金、土曜日はディナータイムを設け、午後5時から同9時まで営業する。月曜定休。問い合わせは同店（TEL0978・25・4688）へ。

福祉作業所製品のセレクトショップ開設 姫路

神戸新聞 2016年8月19日



「おしゃれでかわいい商品ばかり」と商品をPRする西岡加陽子理事長（右）ら＝姫路市大野町

障害者の自立支援を進めるNPO法人「アミひめじ」（兵庫県姫路市北平野南の町）が19日、福祉作業所の雑貨やお菓子を集めたセレクトショップを開業する。今年1月、野里商店街に開設したカフェ「ろてい」（同市大野町）の一角を活用。障害者らが手間暇かけて仕上げた逸品を並べ、作業所の販路拡大を後押しする。（末永陽子）

同法人は、知的障害者らが暮らす場づくりを目指し、2009年に設立された。障害のある若者が親元を離れ、共同生活を送るグループホーム2カ所を市内で運営。カフェは、ホームの一つに隣接する町家を改装してオープンした。

ショップ名は「TETOTETO（てとてと）」。同法人の西岡加陽子理事長（53）らが目利きして、全国6カ所から取り寄せた約80点を販売する。

「さをり工房ゆう」（姫路市）のさをり織りのバッグやポーチ、「菜の花」（同市香寺町）のクッキー、「工房 集」（埼玉県）で作られたスタンドガラスのランプやアクセサリーなどの商品が棚を彩る。店内には各作業所を紹介したパネルも展示する。

作業所の製品に特化したセレクトショップは県内でも珍しいという。

「採算や販路の確保に悩む作業所は多い。流通が可能かどうかという基準で魅力的な商品を選んだ」と西岡理事長。店長の福本祥子さん（39）は「障害者への理解を深めるきっかけになればうれしい」と話している。

ろていTEL079・229・2338

障害者出演する映画製作 介護福祉士で監督の堀河さん 「共生考えるきっかけに」

西日本新聞 2016年08月18日

介護福祉士として働きながら、障害者と共に映画作りに取り組む映画監督がいる。熊本市出身の堀河洋平さん（37）＝東京。9月4日には、新作「千里 翔（と）べ」が、福岡インディペンデント映画祭（福岡市）で上映される。相模原市の障害者施設で46人が殺傷された事件を受け、「たくさんの人に見てもらい『共生』を考えるきっかけにしてほしい」と願う。

堀河さんは、日本映画学校（現・日本映画大学）を卒業後、憧れだった香港映画界へ飛び込んだ。アクション映画など150本ほどの自主映画を手掛けてきたが、言葉の壁に限界を感じ4年ほどで帰国。映画作りを諦めようと、障害者の訪問介助や外出支援のヘルパーとして働き始めた。

「心のバリアフリーを広げていきたい」と映画製作への思いを語る堀河洋平監督



その現場で出会ったのが、生きるエネルギーに満ちた障害者たち。「映画に出てみたい」という声に後押しされ、障害者が役者を務める映画を作り始めた。堀河さんは「映画を作ることに疲れ果てていたのに、再び撮りたいという力が湧いてきた。一緒に作品を作ることが、障害者の自立につながるのではとの思いもあった」と話す。

2013年に完成した「上にまいます」では、ラブストーリーを通じて街にバリアフリーが浸透していない現状を描いた。歩きたばこが車いすの目の高さをかすめてひやりとしたこと、優先エレベーターなのに、誰も譲ってくれず車いすが乗れなかったことなど、ヘルパーとしての実際の経験を盛り込んだ。作品は、第3回知多半島映画祭のグランプリを獲得した。

新作「千里 翔べ」は、子どもたちの友情と成長を描いたファンタジー。脳性まひの小学4年生翔吾は、同級生の健三と一緒に、外国から転入してきた少女・ココをいじめから助けたことで、親友になる。だが、翔吾には家族しか知らない秘密があって—という筋だ。「共生」をテーマに差別や偏見、環境問題などにも焦点を当てた。

この作品のきっかけとなったのは、3年前に堀河さんの元に届いた1通のメール。差出人は、東京都日野市に住む中学生、中野健吾さん（12）の母親だった。「息子は俳優になるのが夢。エキストラで出演させてくれませんか」。母親は障害者専門の芸能プロダクションを探したが、脳性まひで歩けない健吾さんは募集対象に当てはまらず、諦めかけていたときに、堀河さんを知ったという。

「健吾君に会って笑顔を見た瞬間、この子が主役だと直感した」と堀河さん。「障害があっても、夢はかなうんだということ形にしたい」と、インターネット上で資金を募るクラウドファンディングで制作費を募り、168万円が集まった。作品には総勢300人が参加し、今年3月に完成した。

撮影中、健吾さんはアドリブを連発。「初めてとは思えない、柔軟性と度胸に驚かされた」と堀河さん。健吾さんは「表情を作るとか難しいこともあったけれど、役になりきるのがすごく楽しかった。障害がある人、ない人、いろんな人に見てもらえたらうれしい」と話す。

堀河さんは現在も、週3～4日はヘルパーとして働く。相模原の事件を受け、利用者たちに動揺が広がっているのを痛感しているという。「誰もが病気やけがをするのに、障害者、健常者って言葉で分けること自体がおかしいと思う。障害者も高齢者も、他のマイノリティーも、誰もが排除されたり、制限されたりしない社会になるように、映画という形で発信を続けたい」

映画祭は福岡市博多区の福岡アジア美術館を会場に、8月25日からの10日間で約200作品を上映。会場で販売される1日券（千円）などで観賞できる。「千里 翔べ」は9月4日午後2時10分から上映予定。映画祭後は、字幕と音声ガイド付きのバリアフリー上映会を全国展開するという。

滋賀) 虐待経験、語って啓発 甲賀の下川さん 奥令 朝日新聞 2016年8月19日

児童虐待防止の啓発に、両親から虐待を受けた経験者が取り組んでいる。甲賀市の下川

一馬さん（21）。14年間児童養護施設で育った人生を語りながら、虐待の防止や、虐待を受けた子への理解を呼びかける。「少しでも僕のようなつらい思いをする子が減ってほしい」との思いからだ。



下川一馬さん＝県内

下川さんは昨年まで、イベントで着ぐるみを着るなどして啓発活動を手伝っていた。20歳になったのを機に「自分の責任で、自らの言葉で話したい」と、関係者の勉強会などで自身の経験を語り始めた。

4歳まで両親と暮らした。アルコール依存症の父からたびたび茶わんや箸を投げられ、階段から突き落とされた。おびえていつも下を向き、父の顔は覚えていない。

近所の人から通報を受けた児童相談所の職員に保護され、その後県内の児童養護施設で暮らした。

視覚障害者の仕事 独自の発想で創出

河北新報 2016年8月19日

語りのプロとして自立を目指し、練習に励む雲走さん（手前）



視覚障害者を対象とした仙台市太白区の就労継続支援B型事業所「希望の星」が、仕事を独自につくり、利用者の収入確保につなげている。「できること、やりたいことを仕事に」がモットー。従来の下請け型ではなく利用者の関心や特技を生かして仕事を考案しており、就労意欲を引き出す好循環も生まれている。

希望の星は宮城県内で唯一の視覚障害者事業所。宮城野区のNPO法人「ばぎーる太白社会事業センター」が昨年10月に開設した。市内外の20～60代の男女13人が利用し、職員は11人。

希望の星では例えば、点字の読み書きができる利用者の技術を生かし「点字メニュー」を製作する。市内のホテルに提

案し受注に成功。点字で記した1冊30ページのメニュー4冊を約1カ月かけて作り、7月中旬に約3万円で納めた。

視覚障害者が飲食店で注文する際、付き添う健常者にメニューを読んでもらう点に着目。障害者が自分で料理を選ぶことができれば食事がより楽しくなると考えた。製作した角田市の利用者の男性（31）は「店でメニューを使う視覚障害者を思い浮かべ、わくわくしながら作った」と語る。

得意分野を生かした仕事は、パンフラワーやビーズ作品、ジャム、点字名刺の製造販売などのほか、イベントの企画運営もある。

楽器演奏を交えて童話や民話を披露する「語り」を続ける宮城県大河原町の利用者、雲走（くもそう）範子さん（62）は自ら公演を企画し、プロとして自立を目指す。入場料から運営費を除いた分が雲走さんの収入になる予定だ。

雲走さんは『語り』が収入になれば生活に希望が持てる」と言う。希望の星職員の千田裕子さん（62）は「今後も利用者が社会に貢献できる仕事をつくりたい」と意気込む。

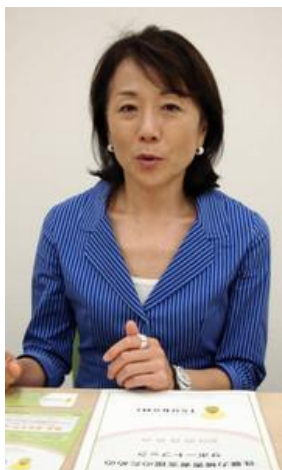
雲走さんの公演は21日午後2時、青葉区中央2丁目「ティーラウンジ ルフラン」で。入場料2000円。連絡先は希望の星022（228）5060。

【就労継続支援B型事業所】障害者総合支援法に基づき、都道府県や政令指定都市、中核市が指定する障害者の就労支援事業所の一つ。一般企業への就労が困難な障害者が主に利用する。利用者と事業所の間には雇用契約はないが、利用者は事業所の生産活動で得られた利益を工賃として受け取る。

性暴力の傷、深く長く 映画「月光」公開 支援NPO法人の望月代表に聞く

東京新聞 2016年8月19日

性暴力被害の実態を描いた映画「月光」が、全国各地で公開されている。性暴力被害者を支援するNPO法人「レイプクライシスセンターTSUBOMI（つぼみ）」代表で、公式ウェブサイトの解説を書いた望月晶子弁護士（49）に、被害の実態を聞いた。（聞き手・稲熊美樹）



◆7割、知り合いからの被害

－TSUBOMIに寄せられる相談は。

性暴力の実態について話す望月晶子弁護士＝東京都内で

二〇一二年に開設してから今年三月末までに、全国から電話などで千三百件の相談がありました。多いのは、強姦（ごうかん）や強制わいせつなどで、深刻な相談が多いです。被害直後の場合もありますが、何年もたってから相談してくる人もいます。七割は、知り合いからの被害。警察への被害届を出すのは相談者の二割弱にすぎません。証拠がなく、泣き寝入りせざるを得ない被害者もたくさんいます。

性被害に遭うと、人が信じられなくなって人間関係が変わってしまったり、居場所がないと感じたりする被害者が多い。TSUBOMIは、被害体験を語らなくても集える交流会として開いています。

－被害者が自分自身を責めることがある。

被害者には何の落ち度もありません。悪いのは、加害者。一度やって味をしめて繰り返し、警察に捕まるまでやり続ける。被害者が複数人というケースはよくあります。アダルトビデオを見て、そういうやり方がいいと勘違いしてしまっている男もいて、罪の意識が薄いように感じます。相手に与えるダメージを全く考えていない。

被害者となる女性たちは、好きな人としてしか性行為をしたくないと考えている。一方、加害者は、相手は誰でもいいと思っている。合意のない性行為は、性暴力です。

－映画の主人公は、子どものころに性的虐待を受け、大人になってからもフラッシュバックに襲われている。子どもの性被害は、児童相談所に相談があっただけでも年間千五百件にも達している。

父親など、親しい人が加害者の場合、被害を打ち明けられないことが多い。そもそも幼いと、被害当時は「嫌だな」と感じて、行為の意味を理解していないこともあります。子どものころに性被害に遭った人たちは「誰かに話したら、自分の家族が崩れてしまう。自分の家族を守りたいから、絶対に言わない」と考えてしまいます。

性的虐待を受けて記憶を失ってしまう人や、三十代や四十代になってもトラウマ（心的外傷）を引きずり、精神科に通い続けているという人からも相談を受けます。それほどダメージは大きく、被害は続くのです。

TSUBOMIへの電話相談（月一金曜と第三土曜の午後2～5時）は電03（5577）4042。無料で、三回まで相談可。メールでも相談できる。レイプクライシスセンターのウェブサイトから（同名で検索）。

「月光」（小沢雅人監督）は、10月1日から横浜市中区の映画館「シネマ・ジャック&ベティ」で上映される。子どものころに性的虐待を受け、成人後も被害に遭った女性が主人公。被害の記憶に苦しむ女性の姿を描く。前売り1500円。当日一般1800円、学生1500円、高校生以下とシニア1100円。初日は全員1100円。（問）シネマ・ジャック&ベティ＝電045（243）9800。水戸市の映画館「シネマボイス」でも上映予定。

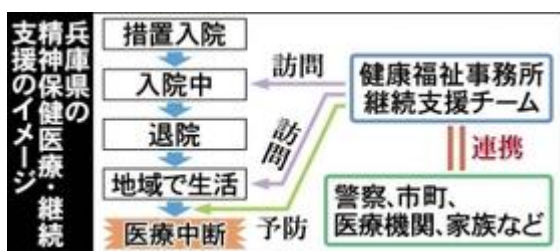
全国中学文化祭始まる 県内初、460校の生徒参加 読売新聞 2016年08月19日

第16回全国中学校総合文化祭大分大会が18日、大分市のiichikoグランシアタを主会場に始まった。同大会の県内開催は初めて。全国約460校の生徒が、吹奏楽や合唱、演劇を披露したり、書道や美術作品を発表したりする。19日まで（展示発表の部は21日まで）。

iichikoグランシアタで行われたオープニングセレモニーでは、同市内の8校で結成した合同合唱団が、滝廉太郎の「荒城の月」などを歌った。

この後、福岡県田川市立中央中が児童虐待をテーマに制作した映像作品を上映。沖縄県石垣市立川平中は郷土芸能をアレンジした「川平満慶太鼓」を舞い、会場は大きな拍手に包まれていた。入場無料。問い合わせは県中学校文化連盟（097・574・7781）へ。

障害者19人刺殺事件 兵庫独自の見守り制度に注目 神戸新聞 2016年8月18日



神奈川県相模原市の知的障害者施設で19人が刺殺された事件をめぐり、措置入院した精神障害者らを退院後も見守り続ける兵庫県独自の支援制度が注目されている。孤立を避け、地域へスムーズに戻れるようにする仕組みで、国や自治体から照会が相次いでいる。

相模原の事件では、容疑者は障害者への加害の恐れがあるとして措置入院したが、約2週間で退院。行政による退院後のケアは行われなかったという。

事件後、兵庫県には相模原市から問い合わせがあった。厚生労働省も再発防止策を検討しており、県は近く、塩崎恭久厚労相から聞き取りを受けるといふ。

「『退院後の通院先はどこか』『家族が不安がっていないか』など、地域へ戻る際の課題を入院段階から把握している」と、兵庫県障害福祉課の津曲共和課長は話す。

制度は今春始まった。昨年3月に洲本市で男女5人が刺殺された事件で、被告が事件前に措置入院した後、治療が中断されていたことを教訓にした。

兵庫では、県内13カ所の健康福祉事務所に継続支援チームを設け、1人に対し保健師や医師ら複数で対応する。神戸や姫路、尼崎、西宮の住民は対象外。事務所ごとに年間10人程度の支援を想定し、警察などとの協議会もつくった。症状が安定し、地域になじむまで見守り続ける。

4～6月は措置入院の10人、医療保護入院の4人を含め、計33人が対象になっている。津曲課長は「現場でどんな課題があるか、今後フォローが必要」と話す。

見守りは住民の不安に応える目的もあるが、強制力はないため本人の納得が欠かせない。県障害福祉課によると、最終的に拒否されたとの報告はない。

神戸市内の病院で働く精神保健指定医（41）は「精神医療の在り方を議論するのは意味があるが、対象者らの人権に十分配慮する必要がある」と指摘する。（森 信弘）

【措置入院】精神保健福祉法に基づく強制入院制度。精神障害のある人が自分や他人を傷つける恐れがある場合、都道府県知事や政令市長が本人や家族の同意がなくても入院させることができる。入院には精神保健指定医2人以上の診断が必要となる。ほかに家族らの同意がある「医療保護入院」などがある。相模原市の殺傷事件は、措置入院していた容疑者の退院から約5カ月後に発生した。

鶴岡の障害者施設、不審者備え講習会 読売新聞 2016年08月19日

神奈川県相模原市の知的障害者施設で起きた殺傷事件を受け、鶴岡市藤沢の障害者支援

施設・鶴岡市立愛光園で18日、不審者の侵入に備えた講習会が開かれた。

同施設は夜間も利用者約40人が滞在し、5人程度の職員で対応している。事件後、さすまた4本を購入するなど態勢を整えてきた。

講習会には職員約25人が参加。鶴岡署員が刃物を持った不審者を演じ、職員がさすまたを使って押さえる訓練を行った。同署員はさすまたの使い方について「1本では反撃を受ける。最低でも2本は必要」「腰を押さえても外される。肩からけさがけに押さえるのが有効」と丁寧に指導した。

鶴岡署員がふんした不審者(左)に、さすまたを突き出す職員ら(18日、鶴岡市立愛光園で)



大川尚施設長は「通報、避難などの役割分担をまとめたマニュアルを早く作り、さらに訓練したい」と話していた。

障害学生の修学を支援 差別解消法を踏まえ骨子案提示 教育新聞 2016年8月18日

第二次まとめの骨子案が出された



障害のある学生の修学支援に関する検討会は8月17日、文科省で第5回会合を開いた。事務局から「第二次まとめ」の骨子案が提示された。4月に施行された障害者差別解消法を踏まえた「合理的配慮」や「不当な差別的取扱い」に関する考え方などが明記されている。

内容は、▽教員による不当な差別的取り扱いの解消▽本人や関係者による正当な権利主張を促すための仕組みづくり▽ハード面でのバリアフリー化やソフト面でのテキスト・データの提供▽講義のインター

ネット配信等の推進—など。

平成24年12月に公表された「第一次まとめ」では、障害者権利条約や障害者基本法を基に合理的配慮の定義づけを行った。

この「第一次まとめ」は障害者差別解消法の施行以前であったため、「第二次まとめ」では、同法の施行を踏まえ、さらなる内容の充実を図る。

また事務局からは、前回の検討会の内容をまとめた資料も提示された。

前回議論された「障害のある学生への合理的配慮の提供も、学生支援の取り組みの1つとしてはどうか」との意見について、委員からは「学生支援というよりも、あって当たり前なもの」「学生支援の一部とするのとは違う」との声が聞かれた。

また障害学生が合理的配慮やその決定プロセスに不満を持ち、「紛争」を起こす可能性を示唆した「紛争の解決と防止」と表現されていた項目に関連して、全国障害学生支援センターの殿岡翼代表は「障害学生は紛争を起こさない。これまでは泣き寝入りをしてきた。障害学生が自分の意見をきちんと言える環境づくりの推進や、相談できる場所があるのだと学生に周知していくのが大切」と述べた。

大学等の障害学生への支援について、筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターの白澤麻弓准教授は「大学側に障害に対する知識を持つ人がいないため、大学をサポートする第三者の相談機関を設ける必要があるのではないか」との意見を出した。

